

平成 23 年 11 月 1 日発行 第 19 号

公益信託 自然保護ボランティアファンド通信

# Park Volunteers



イラストレーターの秋山 孝氏のご好意によりこのマークをファンドの募金箱に掲示させて頂いております

発行・中央三井信託銀行

編集・一般財団法人自然公園財団

ボランティアファンドの助成金は、公益社団法人ゴルフ緑化促進会をはじめ、多くの団体や個人の寄付金・募金で維持されています。

## 皆様のご支援とご協力で自然保護ボランティア活動は維持されています。

公益信託自然保護ボランティアファンドは、1987（昭和 62）年に助成を開始して以来、24 年間で延べ 415 団体へ 1 億 4,532 万円の活動資金の助成を行ってまいりました。この助成金はボランティアファンドの趣旨に賛同する多くの会社、団体、個人の寄付金・募金で支えられています。この国の貴重な自然を守る活動推進のため、ボランティアファンドへの募金活動に、皆様のおたかなご支援ご協力をお願い申し上げます。

自然公園の現場で繰り広げられている自然保護ボランティア活動について、各団体から寄せられた報告をご紹介します。

## 平成 22 年度助成先ボランティア団体からの活動報告

### 豊富町町有林再生活動



私たちは、利尻礼文サロベツ国立公園の環境保全・環境教育・地域活動の充実を目指した活動を展開しております。この度の助成金は、無立木地域になっている国立公園内の町有林の一部、3ha の再生事業に役立たせていただきました。

公園内のミズナラの再生をめざし、H17 年より取り組んでおります。しかし苗木の確保が非常に難しく失敗が続きましたが、H21 年度から質の良いドングリの取得とスタッフの専任化により着実に前進することが出来ております。

H21 年度種から苗木に成長したのが、2000 本あります。H22 年度は 6000 本の苗木に成長しております。活動は、地域の方との協働の展開をしております。再生地には、子供達のアイデアでシンボルとなる看板も掲げました。少しずつではありますが前進をさせて次の世代に引き継ぐ活動にしていきたいと思っております。ボランティアファンドの支援により充実した活動が出来たことに感謝申し上げます。

### NPO サロベツ・エコ・ネットワーク

### 「森の中の温泉街」街並み復活を目指して

### てしかがえこまち推進協議会

阿寒国立公園の川湯地域は、硫黄山を熱源とする硫黄泉が湧出している温泉地です。

昭和 30 年代頃の川湯温泉は、「森の中の温泉街」の印象がある町並みでしたが、現在は住宅の整備やエゾシカの食害等のために町の中の木が少なくなりました。このため、川湯らしい「森の中の温泉街」の町並みの復活を目指して植樹活動を行いました。一度に温泉街全体の植樹は難しいので、今回は温泉街の入口周辺部を行い、作業には地元の観光関係者・行政の方等に協力を頂きました。植樹の木はミズナラ・ヤマモミジ・エゾムラサキツジ等の木を選び、高木・低木それぞれの場所に合った木を植えていきました。この作業は数年間実施していく計画ですが、最終的には「森の中の温泉街」が復活して観光客・地元住民の憩いの場が提供出来れば何よりと考えています。



皆様の協力とボランティアファンドの助成により第一回の植樹活動が終了した報告とお礼にかえさせていただきます。

### 排泄物の人力運搬～幌尻岳でのボランティア活動

### 日高山脈ファンクラブ

日高山脈ファンクラブの幌尻山荘排泄物人力運搬は、早池峰山山頂避難小屋排泄物人力運搬に参加したスタッフが体験したものをアレンジして 2005 年から実施してきた。6 年目となった 2010 年は、公益信託自然保護ボランティアファンドの助成金により実施した。7 月実施の第 1 回が 23 名参加で 157.5kg、9 月実施の第 2 回が 25 名参加で 370kg、併せて 527.5kg の排泄物を人力運搬し、トイレ便槽を空にすることができた。今回を含め、6 年間で延べ 232 名のボランティアの協力により約 2787kg もの排泄物を人力運搬してきた。日高山脈、幌尻岳を愛してやまない山仲間がボランティア参加して排泄物運搬というもっとも嫌な作業を楽しんでやってきた。第 2 回では参加者 2 人がともに 31kg の排泄物を担ぎ、過去最重量タイ記録でした。今後も、その他の処理方法がなければ、排泄物を野山に捨てないために人力運搬を継続したい。



## ニセコ山系の観光振興への取り組み

ニセコアンヌプリをはじめ、イワオヌプリ、チセヌプリなどの山々が連なるニセコ山系は可憐な高山植物や美しい湖沼など、豊かな自然に恵まれた地域。春から夏には登山や湖沼めぐり、秋には紅葉が一面に広がり、そして冬には世界中から多くの観光客が訪れる有数のスキーリゾートとして、季節を問わず、訪れた方々を楽しませています。協議会では、平成22年度のボランティアファンドからの助成により、多くの方々の観光に役立つよう、自然探勝ガイドマップ看板を作成。そのほかにも登山道や散策道などの環境維持、自然観光資源の現況調査、登山情報をはじめとした観光情報を発信するなど、自然環境を保護しながらニセコ山系を軸とした観光の振興に取り組んでいます。

## ニセコ山系観光連絡協議会



## 思い出作りのお手伝い



登別温泉は、9種類の泉源の温泉が湧き出すことから「温泉のデパート」ともいわれ、これは世界的にも珍しく国内での人気は勿論のこと、外国人観光客にも登別温泉の魅力が増している状況にあります。

こうした中、国内や海外からの観光客に地獄谷のガイドだけでなく、登別市が主催する市内の小学3年生を対象とした社会科学習の「登別温泉入浴体験事業」では、地獄谷や大湯沼、登別原始林等の自然観察学習のガイドも、私達ボランティアガイドが担っています。地獄谷周辺の四季折々の景勝に触れ、多くの人との出会いを大切に、ガイドをしたふれあいのひとときを心に残し、登別温泉らしい温かいおもてなしの活動をこれからも継続していきたいと願っております。

## 登別市観光ボランティアガイド会

## ウチダザリガニの防除活動

昨年度（平成22年度）洞爺湖では、各関係機関の連携により、地域全体で10万匹のウチダザリガニを捕獲しました。これが全体生息数の何%にあたるのか定かではありませんし、洞爺湖からウチダザリガニを根絶することは難しいかも知れませんが、捕獲される個体が小型化していること、生息域の大幅な拡大が見られないことなどは、明らかに地道な防除活動の効果ではないかと思われます。当会も2008年1月の設立から、はや3年半。「楽しく潜りながら、ちょっとだけ環境保全にも貢献できれば…」という設立当初の思惑から外れ、お陰様でその活動はどんどん広がっていきました。今後も地域の皆様、各関係機関の皆様のご理解とご協力をいただきながら、地道な活動を続けていくことができればと思っております。この洞爺湖の美しい自然が、末永く守られていくことを願って。

## UW クリーンレイク洞爺湖



## 下北半島西海岸の清掃活動の助成に感謝

## ニホンザル・フィールドステーション

本州最北端、青森県下北半島の西海岸の清掃活動は、平成17年から毎年2回（5月・8月）当法人のボランティア活動として毎回20名ほどで行い、平成20年からの3年間はボランティアファンドの活動助成を受けてきました。

助成を受ける前までは、海岸からのゴミの搬出は峠越えの山道をゴミ袋を持ってひたすら自力で運んでいました。搬出効率も悪く、タイヤなどの粗大ゴミは海岸に放置したままで、人の目の届かない海岸線の清掃活動の限界を感じていました。

平成20年からは、助成を受け、船による搬出が可能となり、効率も高まり大変助かりました。ただ、現場近くの海岸線の洋上で天候が急変し、泣く泣く引返すこともありました。

風光明媚な国立公園の海岸線が、漁具や近隣の国からの漂着物で、大量のゴミが堆積する海岸へと変貌しています。

3年間という短い期間でしたが、ご支援本当に有難うございました。



## 見えてきた植生回復作業の成果

## 八幡平地区パークボランティア連絡会「ヒナザクラ会」



高層湿原の木道周辺の泥炭層が流失して進行している裸地化を防止するため、ファンド助成金で、植生回復用マットや竹串、作業用具等を購入し、裸地化した箇所マットを敷き詰め、周辺から飛散する種子を付着させ、あるいは周辺の種子を採取してマットに散布するなどした。

結果、泥炭層や腐植土の流失が大幅に食い止められた。最近では、植生回復用マットの隙間から湿原植物が芽生え、将来が楽しまれ期待できる様相を呈している。今後も引き続き裸地化した箇所（難しい箇所が多い）を回復できるよう努力したい。

一方、外来侵入植物。主にセイウタンボボ等の外来種はその繁殖力の強さ、開花時期の長さから、開花前の駆除や根掘り作業も容易でない。それでも特別保護地区の頂上付近からの根絶を期して、ボランティア一同頑張っているところだ。

今後も八幡平地区の自然をより良い状態で後世に引き継ぐため、ヒナザクラ会は入山者と共に自然保護に努めていきたい。

## 山に守られながら

## 南八幡平地区パークボランティア「ホシガラスの会」

秋田駒ヶ岳は高山植物の種類も多く、その広がりのある花の山です。

23年前にパークボランティアの会が発足した頃、登山道の荒廃が進行中で、特にシャクナゲコースの急な登山道は侵食が激しく、新たな石組みの道の両側から砂礫が崩れ落ち足を滑らせての転倒や怪我など心配でした。これを防止するため、ボランティアファンド助成をうけコースの一部ですが、「砂礫の土留め柵」「斜面の植生マット」の材料を荷揚げし杭打ちなどの作業を行い設置しました。

また、登山者の一助になればと「自然観察マップ」もつくりました。

今回の助成支援は来山者の安全を守るうえからもありがたく、深く感謝申し上げるとともに、登山道の修復作業にお手伝い下さいました方々に厚くお礼を申し上げます。これからも私たちホシガラスの会は、登山道の清掃をはじめ自然解説など、安全で快適な公園を目指して活動を続けてゆきます。素晴らしい山容に包まれながら。



## 磐梯朝日国立公園浄土平地区での植生復元活動

## 吾妻山自然倶楽部

私たち吾妻山自然倶楽部が植生復元に取り組んでいる磐梯朝日国立公園浄土平地区（福島市）は、火山景観や亜高山帯針葉樹林の深い森など雄大な自然景観を有する吾妻山の一角にあり、観光道路磐梯吾妻スカイラインを利用して多くの観光客が訪れます。

そのため歩道周辺では、踏みつけなどにより植生が消失して土がむき出しとなっている状況が見受けられます。そのまま放置してもみどりは容易に戻ってきません。そこで、土の表面を天然繊維製ネットで覆い、植物が生育しやすい環境づくりに取り組んできました。多くの一般参加者とともに、ヒメスゲという荒地に生える草の種子の採取を行い、各々の手でその種子を播くなどの作業に取り組んで7年になります。吾妻山のすばらしい自然環境を未来へ伝えるため、これからも着実に保全活動に取り組んで参りますので、ご支援をよろしくお願いたします。



## アカポッププロジェクト活動

## 小笠原クラブ



昨年度に引き続き、絶滅危惧種の野鳥「アカガシラカラスバト（通称：アカポップ）」の父島周辺の無人島における調査を、ボランティアファンド助成により実施いたしました。今年度もライセンス法での目視調査と自動撮影カメラによる映像解析を行った結果、調査期間中でのアカポップの確認には至りませんでした。しかしながら、父島での一斉調査の結果などと合わせて精査していくことによって、アカポップ確認に至らなかった結果も重要な資料となっていくため、今後も無人島での調査活動を地道に続けていくことが肝要となります。最後に、謎の多いアカポップの生態解明への活動に対し、ボランティアファンド助成支援をいただいたことに感謝申し上げます。

## 八方尾根ネイチャーラベル設置作業（高山植物の名札立て）

## 八方尾根自然環境保全協議会

八方尾根では、夏シーズンを前にした7月14日、多くのボランティアの協力をいただき、尾根すじに自生している数多くの高山植物の名札・ネイチャーラベルを八方山荘から八方池周辺までの間に設置しました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの色鮮やかな高山植物が咲き競い、グリーンパトロール隊の説明を受けて名札を一つ一つ丁寧に立てていきました。

八方尾根一帯は残雪が多いため、この時期でも雪が解けた箇所から春の植物が顔を出し、春、夏、秋の花が同時に見られる特徴があり、多くの種類の美しい高山植物を見る事ができます。

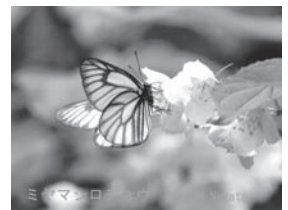
7月現在、特に目を引くのはオオタカネバラ・チシマギキョウ・ハクサンシャクナゲ・イブキジャコウソウなどで、その可憐さ美しさはその場所で見ることが出来ない鮮明さです。



## ミヤマシロチョウと生物多様性活動

## 茅野ミヤマシロチョウの会

ミヤマシロチョウは、長野県の天然記念物・特別希少野生動物植物であるが、生息地の開発・放置による荒廃が原因し、絶滅が危惧されている。私たちの会は、その生息環境を保全・整備し、保護することにより、生物多様性が育まれ、種が自然回復するとの理念に基き、2008年に設立しました。活動内容は、観察会・視察会などの学習活動、違法採集者排除の保護監視活動、生息地の環境保全整備活動、写真展・活動展などの啓発活動です。そして次世代に活動を継承させる・自然のしくみから生命の大切さを、体験を通じて考える「こども育成活動」も行っています。



## 「山の野生鳥獣目撃レポート」プロジェクトについて

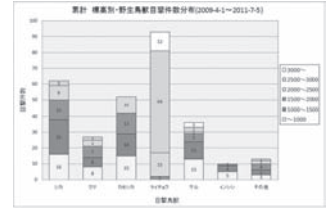
山岳団体自然環境連絡会「山の野生鳥獣目撃レポート」推進委員会

「山の野生鳥獣目撃レポート」は、日本を代表する山岳団体（山岳団体自然環境連絡会）が協働で行っているものです。ファンからはPRリーフレットの作成などで支援を得ています。

この活動は、登山愛好家の方々などからインターネットを通して情報を送信していただき、それらの情報をもとに生息の実態を把握・広報し日本の自然公園の環境保全に役立てようとするものです。この活動は、2009年から5年間の予定で、シカ・ライチョウなど誰でもが知っている動物を主体で行っております。

今までの調査で、南アルプスではシカやサルが食糧を求め高地へ移動し、北アルプスではライチョウの棲息減少、また各地の山岳周辺ではクマ・サル・イノシシの人里への侵入などが記録されています。こうした情報はインターネットを通してホームページへ掲載しています。

「山の野生鳥獣目撃レポート」ホームページ：<http://www.jma-sangaku.or.jp/conservation/yaseichoju/index.html>



## 「カワウの棲みつかない森づくり」

ヒマラヤン・グリーン・クラブ

ヒマラヤン・グリーン・クラブは、カワウの糞害で枯死した森林を再生しようと1999年から滋賀県近江八幡市の伊崎国有林で、ヤマザクラ、コナラなどを植栽し、2006年までの7年の間手入れをし、この植林地の十分な成長を見届けて春の下草刈りを最後に返還した。その後新たに同地で、ヒノキ、スギを伐採し、丸坊主となった跡地を「カワウの棲みつかない森づくり」として咲き誇る森林に戻そうと、放置された枝条や灌木、下草を片付ける「地拵え」から入り、翌春に近江八幡市の「緑の少年団」、一般市民、森林ボランティアの方々と共にヤマザクラをメインに自生種であるコナラ、ヤマモモ、ヤブツバキ、モクレン、ツツジなど500本余りを植栽し、今日までの4年間、年2回の下草刈り、自然観察会等の森林整備活動を行っています。



## 串本町のサンゴを守る活動

サンゴを食害する動物駆除実行委員会



串本の海には延々と続くテーブル状サンゴの大群落を初めとする美しい海中景観が見られ、1971年7月には一部海中公園地区に指定され、2005年には世界最北限のサンゴ群集としてラムサール条約湿地に登録されました。

ところが、2000年頃からサンゴ食巻き貝やオニヒトデが大量に発生し、貴重なサンゴが食害されはじめました。そこで被害を食い止めるべく、町内ダイビングショップや一般参加ダイバーによる駆除が始まりました。当初1年間に巻き貝は120000個体、オニヒトデは20000個体余りが駆除されましたが、継続駆除により昨年はそれぞれ5442個体、3274個体にまで減少しました。この内ボランティアファンによる助成金では、オニヒトデ総数の14%に当たる456個体が捕獲されました。サンゴの成長量と、彼等の食害量とに均衡が保たれるまで、更なる駆除努力が必要と考えます。今後ともご支援のほどよろしくをお願いします。

## 山陰海岸ジオパークガイドで地域の活性化

全国まちづくりサポートセンター丹後支所

京都府京丹後市地域は、海岸景観を始め自然豊かな「山陰海岸国立公園」かつ「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されています。

また、丹後ロマン街道・国道178号線は「日本風景街道」に登録されています。そして、平成22年10月4日に、「山陰海岸ジオパーク」が世界認定されました。このような自然公園の魅力を全国に発信するために、ジオパークガイド並びにネイチャーガイド（植物）を実施しています。また、自然公園のクリーン作戦を、毎月する所と随時の場所に分け、市民と協働で実施しています。これらのガイドが、参加者からより満足していただけるために、ジオパークガイド研修と植物観察会を定期的実施し、スキルアップをはかっています。



## シカの食害から貴重な自然林を守る

三嶺の森をまもるみんなの会

高知県と徳島県境に位置する三嶺（1893m）を中心とする山々は、豊かな自然林と希少種を含む林床植生がありました。それが、シカの食害によってひどく失われだして5年余が経ちます。これは大変だと、自然保護団体や流域の団体が集まり、「三嶺の森をまもるみんなの会」を結成して4年。普及啓発活動（写真展、シンポジウム、公開報告会、本とDVDの作成）を展開すると共に、山の現場では、ボランティアを募り、防鹿柵の設置や樹木のネット巻き活動を約100名の参加のもとに実施してきました。5、6年前から目立つ稜線部のウラジロモミ（写真）などの樹皮食い被害に加えて、最近ひどいのはダケカンバの被害であり、白髪山の山頂周辺ではボランティアが「巻く木がない」と嘆くほど被害が深刻になっている。モニタリングも行いながら、対策の方向性を見極めているところです。こうした活動にボランティアファンの助成をいただき、厚く感謝している次第です。



## 「コバノミツバツツジと里山清掃活動について」

グリーンパートナーおかやま

この度ファンドの助成金をいただいた中で私達は、瀬戸内海国立公園天目山にてコバノミツバツツジの植樹を岡山大学と共同事業で行いました。3年間事業は平成23年度で終了しましたが最後の苗木の一部を今秋に植樹します。

平成22年に植樹した300本の苗木はすくすくと成長しております。今春、綺麗なピンク色の花びらを咲かせました。岡山大学の学生さんは年2回の笹刈り、下草刈り等様々な体験学習を経験できてとても楽しいと言って下さいました。また、自然体験学習や炭焼き体験学習などを自然に向き合う子供達や大人達に実施しました。汗をかく作業が多いですが参加者はみなもう一度参加したい、と言ってくださりこの事業をして良かったな！と思っております。

助成金をいただいた事によって、グリーンパートナーおかやまは様々なドラマが生まれ、人と人との繋がりも出来ました。この感謝の思いを胸にこれからも私達は活動し続けます。天目山がピンク色の絨毯で埋め尽くされるまで。



## 再生プロジェクト 火の山・森の応援隊

ふくの森の会

太さ9cmのカズラ切り！大木にへばり付いたツル剥ぎ！——5年目になる瀬戸内海国立公園・火の山の手入れをする「森の応援隊」。22年度は、11月29日、ツルの切断と風倒木の整理を目的に、寒い日にもかかわらず、一般市民54人にも駆けつけていただき、会員34人と合わせて総勢88人が奮闘しました。

作業場所は、①パークウェイ1号橋の右下、②トルコ・チューリップ園の西側。カズラ切り、ツル剥ぎに悪戦苦闘もスッキリした森に「大成功！」の声が一般参加者から上がるほどの成果。後日、下関・中尾友昭市長からは感謝状も届けられました。

なお、「公益信託自然保護ボランティアファンド」からは、3年間のご支援を仰ぎました。感謝するとともに購入したノコナタ・替え刃などの道具類は、今後の活動に大切に使用させていただきます。3年間ありがとうございました。



## みんなで守る草原の風景と希少生物

三瓶の希少生物と景観を守る連絡会



鳥根県の中央に位置する三瓶山には、全国でも希少な草原景観が広がっています。草原には、県内でも減少が著しい草原性動植物がみられ、行政、市民グループ、地元小学校などが協力して、これらの保全活動を行っています。地元には3つの小学校がありますが、それぞれが異なる希少生物を対象として、数年前から保全活動に関わっています。各小学校では、希少生物などの栽培だけでなく、三瓶の草原に出かけての学習、市民グループの方との活動などを行ってきました。こんな動植物が自分たちの地域に棲んでいたことを知らなかった、そんな驚きと発見の感想が聞かれました。ボランティアファンドの助成により、栽培用のプランターや土、子どもたちの移動のための経費、刈り払い機の替刃などを購入させて頂きました。ボランティアファンドのご支援に感謝しながら、今後も地道に活動を続けていきたいと思います。

## 「見守り地蔵」の設置

秋吉台エコツーリズム協会

ボランティアファンドの支援により、お陰さまで、平成22年度も秋吉台の多くの洞窟や湧水で、清掃活動に取り組むことができました。特に地元の小学校や、子ども会の活動など、多くの子供も達と一緒に、清掃活動に取り組んでくれたことは、私たちにとって、大きな励みになっております。

一方、前年に清掃活動を行った場所が、一年後には、再びゴミの山になっているなど、ただ単に清掃活動を継続して行うだけでは、根本的な問題の解決には至らない課題も見えています。そこで、洞窟に流入してくるゴミの元を断つため、秋吉台の不法投棄が激しい場所へ、不法投棄防止用の「見守り地蔵」を設置する活動を開始しました。地元の大理石を活用し、自ら彫った見守り地蔵を設置しています。効果は継続して観察中ですが、美しい洞窟がこれからも保全されるよう、さまざまな取り組みを続けてゆきます。



## アカウミガメの保護活動

岡垣ウミガメ倶楽部

福岡県岡垣町は「海がめめかえる町」をキャッチフレーズに、県内でも数少ないアカウミガメが産卵する場所として知られています。三里松原が広がる風光明媚な海岸で、私達はウミガメの産卵からふ化して海に帰っていくまでの調査や保護活動を行っています。砂浜から子ガメ達が海へ旅立っていく姿を多くの人たちに見てもらいたい、そしてともに感動を分かち合いたい。それが私たちの活動の原点です。

近年は、各団体が協力して海岸清掃や三里松原の保全に努めていますが、一部の心無い人達が砂浜でバイクを乗り回したり、ゴミを放置するなど、ウミガメの産卵環境に大きな影響が心配されていました。そんな中ボランティアファンドの支援でバイクの乗入禁止や自然保護の啓発看板を設置することができました。温かなご支援とご協力に感謝申し上げます。

今後も美しい自然とウミガメの産卵をしっかりと守っていききたいと思いますので、ご支援のほどをよろしくお願いいたします。



## オオゴマダラ蝶の再生を目指して

与論島ウンパル学校

オオゴマダラは鹿児島県に於いては、喜界島と与論島にしか棲んでいない貴重な蝶であるが、2005年ごろから与論島ではオオゴマダラ蝶を見かけなくなった。

有志がヨロンマラソン第16回大会を記念に、オオゴマダラの森記念植樹祭と与論島港コースタルリゾートで執り行ったのを契機に、この運動を島全体に普及し、人と自然が共生できる島づくり活動に発展させたいと思っていた。2006年11月、最初の活動としてオオゴマダラの蛹と食草のホウライカガミを沖縄より移入した。



ボランティアファンドからの助成金は、ほとんどがヨロンマラソンの記念植樹の活動に役立てました。去年は記念の第二十回大会でした。植栽した食草のまわりをオオゴマダラが飛び交う姿がみられ、蝶の再生とともに海岸植生の再生の試みも着実に進んでいます。

ファンドの看板「みんなのみどり」に恥じないようこれからも活動を持続したいと考えております。ありがとうございます。

### 平成22年度の助成先団体一覧表

助成金総額 600万円

番号	助成先ボランティア団体	助成対象活動	助成額
1	サロベツ・エコ・ネットワーク	砂丘林再生事業	30万円
2	てしかがえこまち推進協議会	植栽による修景活動	30万円
3	日高山脈ファンクラブ	ゴミ・排泄物等の人力運搬	33万円
4	ニセコ山系観光連絡協議会	山道の整備・案内板の修理	37万円
5	登別市観光ボランティアガイド会	観光ボランティアガイド	30万円
6	UW クリーンレイク洞爺湖	特定外来生物防除	30万円
7	ニホンザル・フィールドステーション	漂着ゴミ回収処理	15万円
8	八幡平地区パークボランティア連絡会「ヒナザクラ会」	外来植物駆除・植生回復	16万円
9	南八幡平地区パークボランティア連絡会「ホシガラスの会」	ガイド、高山植物パトロール	15万円
10	宮城県勤労者山岳連盟	湿原、湿性植物の保護	14万円
11	吾妻山自然倶楽部	荒廃裸地の植生復元作業	9万円
12	小笠原クラブ	絶滅危惧種対策	25万円
13	八方尾根自然環境保全協議会	植生回復、沼の浚渫	28万円
14	茅野ミヤマシロチョウの会	生息地の保全整備・調査	20万円
15	山岳団体自然環境連絡会「山の野生鳥獣目撃レポート」推進委員会	野生鳥獣の目撃情報の収集リーフレットの作成	30万円
16	ヒマラヤン・グリーン・クラブ	枯死樹木の再生事業	12万円
17	サンゴを食害する動物駆除実行委員会	サンゴを食害する動物駆除	33万円
18	全国まちづくりサポートセンター丹後支所	清掃活動・自然ガイド等	20万円
19	三嶺の森を守るみんなの会	シカ食害対策	50万円
20	グリーンパートナーおかやま	植生回復	23万円
21	ふくの森の会	森林再生保全活動	10万円
22	三瓶の希少生物と景観を守る連絡会	草原維持、希少植生保護	10万円
23	秋吉台地域エコツーリズム協会	清掃、環境保護活動	25万円
24	岡垣ウミガメ倶楽部	アカウミガメの調査研究・清掃	35万円
25	与論島ウンパル学校	海岸植生の再生	20万円

## 平成 22 年度の寄付者・賛助会員

### ★信託委託者

(敬称は略させていただきます)

公益社団法人ゴルフ緑化促進会 (旧・(社)ゴルファーの緑化促進協力会) 10,000,000 円

### ★委託者からの追加信託累計額

公益社団法人ゴルフ緑化促進会 (旧・(社)ゴルファーの緑化促進協力会) 136,500,000 円

### ★委託者からの平成 22 年度の追加信託金

公益社団法人ゴルフ緑化促進会 (旧・(社)ゴルファーの緑化促進協力会) 4,500,000 円

### ★これまでの寄付累計額が 10 万円以上の方々

(株)JTB4,569,463 円・私立医科大学協会看護部長会 2,526,000 円・日東興業(株)1,500,000 円・歩け歩け大会参加者 1,065,846 円・光都東京実行委員会 2,100,000 円・(一財)自然公園財団 811,971 円・(財)国立公園協会 503,000 円・神奈川県自然公園協会 500,000 円・(財)休暇村協会職員一同 316,120 円・上宝観光(株)平湯キャンプ場 201,865 円・NTT テレカ 200,000 円・(株)杉本カレンダー 200,000 円・ホクレン商事 191,714 円・中央三井信託銀行本店営業部一同 120,000 円・十文字中学校中央委員会 100,692 円・山陰観光商事(株)100,000 円・山路会(TKK)380,000 円・伊藤卓雄 637,000 円・堤口康弘 700,000 円・後藤彌彦 500,000 円・長岡郁子 500,000 円・山内知子 500,000 円・森幸男 500,000 円・田部和博 416,400 円・楠直 300,000 円・壬生忠利/尚美 300,000 円・高田保典 200,200 円・山本晃晨 200,000 円・杉尾伸太郎 100,000 円・鍛治哲郎 100,000 円・小坂橋延弘 100,000 円・新井正明 100,000 円

### ★平成 23 年 3 月 31 日現在の賛助会員

永久会員法人の部 (株)槍ヶ岳観光・(有)日本アルプス常念小屋  
永久会員個人の部 小山義秀・穂苅貞雄・澤村 宏・松井昭子・山田鉛一・本間土照  
一般会員法人の部 酸ヶ湯温泉(株)・(資)八幡平後生掛温泉・(株)湯瀬ホテル・陸中海岸国立公園観光(株)・(株)五千尺ホテル・(株)ホテル白樺荘・(株)西糸屋山荘・大正池ホテル・(有)嘉門次小屋・(有)明神館・阪神電気鉄道(株)・(株)松野町観光公社  
一般会員個人の部 石川清一・伊藤卓雄・谷口 恭・土橋敏宣・瀨田朋子・帆苅信五

### ★平成 22 年度に寄付金をお送りいただいた協力会員

ホテル地の涯・(社)摩周湖観光協会・ワカサリゾート(株)旭岳事業部・(財)しまね自然と環境財団・(有)みやま商店・環境省屋久島自然保護官事務所・九重星生ホテル・上高地西糸屋山荘

### ★平成 22 年度の一般の寄付者

(一財)自然公園財団・同 登別支部・同 上高地支部

### ★平成 22 年度ビジターセンターおよびパークサービスセンター関係の募金

(VC = ビジターセンター、EMC = エコミュージアムセンター、PSC = パークサービスセンター)  
西表野生動物保護 C 他 8 施設 合計 68,126 円・釧路湿原野生生物保護 C・昭和新山 PSC・草津白根 PSC・富士 VC・飛騨北アルプス自然文化 C・鷲羽山 VC・桜島 VC・竹富島ゆがふ館

### ★平成 22 年度休暇村関係の募金

休暇村南淡路 他 24 施設 合計 44,153 円・支笏湖・岩手網張・気仙沼大島・裏磐梯・羽黒・那須・日光湯元・館山・富士・南伊豆・越前三国・近江八幡・南紀勝浦・紀州加太・竹野海岸・奥大山・蒜山高原・吾妻山・大久野島・南淡路・讃岐五色台・志賀島・南阿蘇

### ★平成 22 年 8 月 1 日現在の協力会員数

(人数)

北海道地区 (知床 3、川湯 3、釧路 1、層雲峡 8、勇駒別 2、支笏湖 2)……………19  
東北地区 (八甲田 1、十和田湖 2、八幡平 2、宮古 1)……………6  
中部地区 (上高地 8、平湯 1、吉野 1、伊勢志摩 1)……………11  
中国四国地区 (瀬戸内海 8)……………8  
九州沖縄地区 (くじゅう 5、鹿児島 1、指宿 1、佐多岬 1、屋久島 1、石垣 1、西表 2)……………12

## 平成 23 年度の助成先団体一覧表

助成金総額 600 万円

番号	助成先ボランティア団体の名称	活動公園名	助成額
1	サロベツ・エコ・ネットワーク	利尻礼文サロベツ国立公園	25万円
2	日高山脈ファンクラブ	日高山脈襟裳国立公園	20万円
3	アポイ岳ファンクラブ	日高山脈襟裳国立公園	25万円
4	ニセコ山系観光連絡協議会	ニセコ積丹小樽海岸国立公園	22万円
5	須川の自然を考える会	栗駒国立公園	40万円
6	八幡平地区パークボランティア連絡会「ヒナザクラ会」	十和田八幡平国立公園	16万円
7	南八幡平地区パークボランティア連絡会「ホシガラスの会」	十和田八幡平国立公園	17万円
8	吾妻山自然倶楽部	磐梯朝日国立公園	15万円
9	奥那須の森ボランティア協議会	日光国立公園	20万円
10	シラネアオイを守る会	日光国立公園	20万円
11	三ツ峠ネットワーク	富士箱根伊豆国立公園	25万円
12	白根山系の高山植物を護る会	上信越高原国立公園	35万円
13	八方尾根自然環境保全協議会	中部山岳国立公園	25万円
14	高山植物に影響を与えるシカの食性調査グループ	南アルプス国立公園	20万円
15	山岳団体自然環境連絡会「山の野生鳥獣目撃レポート」推進実行委員会	南アルプス国立公園	25万円
16	生物多様性研究所あーすわーむ	上信越高原国立公園	32万円
17	八幡山の景観を良くする会	琵琶湖国立公園	25万円
18	琵琶湖畔の景観を良くする会	琵琶湖国立公園	15万円
19	サングを食害する動物駆除実行委員会	吉野熊野国立公園	25万円
20	全国まちづくりサポートセンター丹後支所	山陰海岸国立公園	15万円
21	三嶺の森をまもるみんなの会	剣山国立公園	37万円
22	蒲生田地区常会	室戸阿南海岸国立公園	11万円
23	横田山の会	比婆道後帝釈国立公園	25万円
24	秋吉台地域エコツーリズム協会	秋吉台国立公園	20万円
25	瀬浜愛山会	瀬戸内海国立公園	25万円
26	岡垣ウミガメ倶楽部	玄海国立公園	20万円

## 賛助会員制度をご紹介します。

ますます増えてくる助成の要望に応えるために、安定的な財源の確保が急務となったことから、次のような賛助会員制度の普及に努めています。

- ①一般賛助会員 次の年会費を納めてくださる会員。  
 法人・団体会員 1口 30,000円 個人会員 1口 3,000円
- ②永久賛助会員 会費を一括納入する永久会員制度もあります。  
 法人・団体会員 1,000,000円 個人会員 100,000円

## 協力会員になってください。ボランティア募金箱の設置をお願いします。

自然保護ボランティアファンドでは、自然素材を使ったかわいらしい募金箱と説明書を用意しています。

旅館のフロントや公園利用者が集まるところにこれを設置してくださる方を募集しております。集まった寄付金は、郵便振替で送金していただきます。

現在、国立公園内ビジターセンター等 57ヶ所、休暇村 35ヶ所をはじめとして全国各地の旅館等 128ヶ所でこの募金活動を行っています。



## 協力会員の皆様へ。最低でも年1回はボランティア募金の送付をお願いします。

募金の送金件数が、ボランティアファンドの評価となります。たとえ僅かな金額であっても、必ず年に1回は送金してください。募金に込められた思いを生かすために、どうぞよろしく願います。

ご寄付・募金等のお申し込み、会員制度の詳細は、下記にお問い合わせください。

連絡先 中央三井信託銀行 リテール受託業務部 公益信託グループ

〒105-8574 東京都港区芝 3-33-1 TEL03-5232-8910 (代)